

埼玉大学教養学部同窓会だより

けやき会

第13号

教養学部50周年

けやき会会長 榎木誠

(70年卒中国文化)

けやき会は創立から20年以上の歴史を刻み、青年期を迎えました。この間、卒業後官民の各分野で活躍する約7000人の同窓生のネットワークを強化するため、年1回の同窓会総会の開催や会報発行、ホームページでの発信などの活動を進めてきました。また、卒業生と在学生の結びつきを強めるために教養学部とも協力して、研究支援や就職支援などの活動にも積極的

に取り組んできました。国立大学予算が年々削減されるなど、大学と学部を取り巻く環境は年々厳しさを増しつつあります。こうした中で、よりよい研究・教育環境を守る上で、同窓会が果たす役割はますます大きくなっています。

2013年度からは教養学部のご支援とご協力を得て、卒業生と在学生を結び学ぶの場として、教養学部の講義の中に、けやき会の寄附講座「経済事情——グローバル時代のキャリア形成」の授業を開講することが出来ました。2年目を迎えて、受講生も増えている講座では、官民各界で国際的に活躍されてきた同窓生の方々に、グローバル化最前

線で蓄積した貴重な経験と知識を在学生たちに還元していただいています。教養学部は現在、「グローバル人材育成推進事業」に積極的に取り組んでいます。けやき会としても寄附講座などを通じて、広く世界で活躍する次世代の育成に今後とも積極的に貢献していきたい、と考えております。

2014年度には、待望の教養学部同窓会(けやき会)の「けやき会名簿(第3版)」を発行いたしました。1992年2月の第1版、2005年4月の第2版に続いての発行です。今後ともこの名簿が、新会員の方々を含めた同窓生の皆様とのネットワークの礎になると共に、新たな感動や懐旧の情などを提供することに寄与できれば幸いです。

2015年度は、旧文理学部の改組によって教養学部が新設されてから50周年を迎えます。新設当時、東京大学や国際基督教大学など全国でも極めて希少な存在として産声を上げた教養学部は、その個性を最大限に生かして、社会の幅広い分野で活躍する有為な人材を輩出してきました。50年

の歩みの中で、教養学部が社会的な声望を高めて来ることができたのは、学部の教職員の方々の尽力と同窓生の皆さまの努力の賜物と深く感謝いたします。今年度は学部とも協力して、教養学部の半世紀の歴史にわたる豊かな蓄積を多様な形で発信することができればと思います。

けやき会は、「時代と社会の荒波の中で活躍する同窓生に、心の潤いと楽しみ、励みを与える場」であると共に、専攻別や学年別など同窓生同士の交流の輪を有機的に結合する組織としての活動をさらに強化し、深化させていきたいと思えます。けやき会の人の輪、活動の波をさらに強固に広げていくために、皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます。

転退職される

先生から

加藤泰建先生

(文化人類学)

大学を去って一年

教養学部に私が着任したのは昭和52年4月のことで、平成20年3月に退職するまで31年間お世話になった。しかし教養学部の教員を辞めた後も、6年間は、国立大学法人埼玉大学の役員として同じキャンパスで勤務を続けた。埼玉大学を去ることになったのは昨年の3月である。

私が教養学部に採用されたときに埼玉大学長から受け取った辞令は妙な記載になっていた。「教育職(一)3等級(埼玉大学講師教養学部)に昇任させる」と書かれている。埼玉大学への着任なのに、なぜ昇任の辞令なのだろうか。

実は4年前の昭和48年に、私は東京大学総長から「文部教官教育職(一)4等級(東京大学助手教養学部)に採用する」という辞令を受けていた。すでに文部教官として東京大学に採用されていたのである。

実際には埼玉大学が講師としてあらためて採用したのであり、東京大学はこの人事に何ら関係がない。しかし辞令では昇任させて配置換えを行うという形になっている。これが国立大学

2015年度けやき会総会・講演会のお知らせ

日時 6月27日(土) 1時半 場所 埼玉県立近代美術館

講演 田代脩 埼玉大名誉教授

演題 「『太平記絵巻』と武蔵武士」 1時半より市民公開

懇親会 4時〜6時 会費 5000円(当日受付)



退職記念パーティーで花束を受け取った加藤先生

の仕組みであった。東京大学も埼玉大学も形式上は一つの国立大学で、すべて文部大臣が管轄する組織だったからである。

昭和54年4月には「埼玉大学助教教授教養学部」に昇任させる」という辞令を受けた。今度の発令者は文部大臣である。ここが助手、講師のときとは違った。同じ文部教官であっても国立大学の助教教授となると文部大臣が発令するのである。助教教授への昇任を実際に決めたのは教養学部教授会だが、任命は文部大臣が行うという形になっていた。

その後、教授に昇任したとき、さらに学生部長、留学生センター長、副学長などの埼玉大学内の管理的役職を併任する場合にも、文部大臣から任命された。も

ろろん大臣がこれらの人事に関与するわけもないが、国立大学の教官とはそういうものであった。

平成13年1月になって「中央省庁等改革のためにより文部教官は文部科学教官となった」という通知を受けた。文部省が文部科学省になったためである。

教官という言葉は、例えば文化人類学コースの担当教官とか卒業論文の指導教官というように、大学の中心ではごく普通に使われてきた。あまり意識はしなかったが、実は国家公務員の文部教官を略しているのだから、それが文部科学教官になったとしても教官には変わりがない。しかし、この新しい名称は馴染む間もなく解消されることになる。

平成16年4月に「国立大学法人法」により埼玉大学に承継された」のである。このときから、私は文部科学教官ではなく国立大学法人埼玉大学の教員となった。いわゆる国立大学の法人化であり、日本全国の国立大学に配置されていた国家公務員としての教官がすべて、それぞれの国立大

学法人に所属する教員となったのである。

このとき私は還暦の年に近づいていた。定年まではまだ数年ある。埼玉大学の定年は65歳でこれは法人化されても変わりがなかった。長年行ってきた大学での講義をどのようにまとめ完成させるのかを考え始めた。かつては退官講義、退官記念講演と呼ばれていたものがあつたが、もはや法人化されたので退官ではない。と、いつか退職講義という言葉もしくくりこない。

文字通り最終講義である。これを少なくとも数年かけていろいろな授業を積み重ねながら準備していこうと考えた。

大学の教員は研究を行い、その成果を踏まえて学生に教授する。しかし研究の成果が形になるには時間がかかるので、どうしても研究と講義との間には時間差が生じてしまう。私の講義を受講した学生諸君は研究の途中段階の話しか聴けない。あるいは研究の全体構想の一部分しか聴くことができない。

そこで退職するときには自分の研究と自分の講義の

ずれを解消しておきたいと考えた。そして、すでに卒業してしまった諸君にも、ぜひ完成した最終講義を聴いてもらいたいと思った。

ところが平成20年3月、定年にはまだ数年あつたが、私は教養学部教授を辞職することになってしまった。国立大学法人埼玉大学の理事・副学長に就任することになったからである。埼玉大学では30年以上にわたって自由に教育と研究をさせてもらった。法人化されて厳しい競争的環境におかれた埼玉大学の運営に尽力するのは恩返しであると思ひ、役員の職務に専念することにした。

そして6年後の平成26年3月に退職した。埼玉大学での37年間、充実した時間を過ごすことができたと思う。ただし、悔いが残るところとしたら最終講義に臨むことができなかったことである。6年前に教員として辞職してしまったので、授業を積み重ねて最終講義を目ざすことができなくなった。講義を完成させる最後のプロセスを持つことができなかったのである。

大学を辞めてほぼ1年が

過ぎようとしている。今になって未完となった最終講義の構想をまとめようとしているが、まだまだ時間がかかりそうだ。

水野博介先生

(現代社会)



（埼玉大学教養学部73年卒）
わが教養学部への

複雑な思い

埼玉大学教養学部は、私にとつては何の思い入れもない状態で受験し、合格して「ほっと」したものの、何でこんなところに来てしまったのかという思いで入学し（但し、「入学式」はなかった）、その後、卒業（卒業式）はあつたしてから12年後には助教教授として迎入れて（？）いただき、この3月をもって退職するまで、私にとつては重要な本拠地であり続けた。30年間、私の心の拠り所でもあつた。であるから、もつと愛校心があつてもよいのであるが、未だに私は「浮草」的な気分があり、しっかりと大地を踏みしめてきたという感慨に乏しいのである。これは、おそらくは性格的なものもあるし、自分の生



い立ちと時代状況にも影響されてきた。
私は、そもそもは関西出身ながら、家庭の事情から関西に居ることができず、関東に流されてきた人間である。そこからもう「浮草」的な気分が発しているのだが、千葉県に流れ着いた先の高校を卒業し、大学受験では一浪し、めざす大学はあったのだが、何故かその大学の入試は1969年の「大学紛争」によって吹っ飛んでしまった。私はとても疲弊しており、受験戦線のなかで勝ち残ることができそうもなかった。私立大学という選択肢はもとより念頭になかったが、どこかに入らないわけにはいかない。というところで急遽受けた（実際にこの選択肢しか残っていないさそうだった）のが、埼玉大学教養学部だった。言ってみれば、何か

大きな津波のような力に流されて、必死にしがみついた助かった場所がここだった、というような感覚である。

ほっとして入ってはみたものの、見渡しても浦島太郎のように私には全くなじみのない所（とても辺鄙なところに来た気がした）で、当時は北浦和からすぐのキャンパス（今、埼玉県立近代美術館のある場所）に旧制浦和高校の古びた校舎がまだ残っていて、そこでなされた授業にもあまり希望はもてない感じがした。それでも、とにかく2週間ほど授業を受けた。非常勤講師の西江雅之氏（当時32歳）の「言語学」の授業は少し面白かった。アフリカのあらゆる言語には、舌打ちの音があるというのがとても印象的だった。他の授業は全く記憶にない。まだ本格的に始まっていなかったのかもしれない。

5月の連休明けに埼玉大学に来てみると、正門の内側に、イスや机が山のように積まれていた。「バリケード」だった。そのちようど一年前に、パリで始まった学園紛争が地球を半周してやっとこの地に到達したの

だ。この紛争も全く何の希望もないものだった。過激派の学生たちは、キャンパスを「解放区」とし、普通の学生は自由に出入りできなかった。「自主学習」が謳われ、私はそれに期待した。しかし掛け声ばかりで、一度として真面目に「自主学習」がなされたことはなかった。

私は他の数名の学生と協力して、ドイツ語の先生の一人（これも非常勤であつたらう）に一度だけドイツ語の授業をしていただいたことがあった。白眼が青味

がかつた先生（当時40歳くらい？）だった。それもわずか一回きりだった。過激派学生は「破壊」を標榜するだけで、何の展望もなく、ただ時間の無駄だった。この状況は11月頃まで半年以上続き、やっと自治会が開かれ、紛争終結を決議し、授業が再開されるはずであったが、実際には授業はほとんどなく、10コマ以上の授業のレポート試験で40単位以上をもらって終わり、という1年だった。

2年生のときと3年生のときは、一応落ち着いて授業を受けたが、非常勤や専任の中には、ほとんどあるいは全く授業をしない先生がいた（給料はもらっていたであろうに）。ひどいものである。大幅遅刻を繰り返す、間違ったことを教える英語教師もいた（この人はロシア語が本職で、後に同僚になった）。良い授業として記憶に残っているのは、村上陽一郎という当時上智大助手（後に東大教養学部教授）による非常勤の授業で、科学哲学に関するものであった。問題の設定が興味深かった。

同級生の中には、フランス語の学校やアウンス学校に行っていた人がいた。私は、もともと行こうと考えていた大学の研究生になって、埼玉大学の3・4年のときは2つのキャンパスを歩きまわっていた。その後、その大学院に行った。その教育も特にすばらしくはなかったが、大学の教師にはなりやすいというメリットはあった（埼玉大学教養学部にはまだ大学院は設置されていないかった）。

後年、埼玉大学教養学部の教師になったが、結構優秀な学生も多かった。私は日本の大学や大学院であまり教育を受けた感じがしない（アメリカに留学したときの方が勉強した）。結局は教えながら自分で自分を教育するしかなかったように思う（だから、私の教育も行き届かないものだった）。学生たちが、私には教師の代わりだった。だから退職後は、そのような学生に接する機会が減ることが私にとって一番こたえることになると思う。さて、これからどうしよう？

同窓生から

教育は発酵、

杜氏次第で



穴澤 明（文理62年卒）

入寮の事務手続きを終え、昭和37年文理学部人文科を卒業し家の都合により会津に帰ってきた者です。東京には行くことがあっても、浦和にはなかなか寄れず、昨年の同窓会総会に出るまでは矢澤利彦先生の叙勲の祝賀会に出ただけでした。そんな訳で今だに統合された大学に行つたことがないという疎遠さです。しかし埼玉大学を忘れては



はなく、同窓会の会報が届くたびに、心躍らせている者です。

私の埼玉での4年間というのは、いい先生に恵まれずばらしい4年間でした。特に日本史の小野先生、東洋史の矢澤先生は忘れることのできない恩師です。学生数が少ないので濃密な授業ができたのです。ある時などは先生のご自宅でお邪魔して、奥様の手料理をごちそうになったこともありましたが、今考えてもすばらしい大学生活であったとしみじみと思います。

ある人が、日本文化は発酵の文化だと言っておりましたが、なるほどと思いました。

縄文時代に稲作の文化が入ってくると、どこよりもおいしい米をつくり、漢字からひら仮名、かた仮名の文字をつくり、識字率を高

め、枕草子や源氏物語のような文学が栄える。このようなことは、まさに米から酒や酢をつくり、豆から味噌や納豆をつくりだす。これこそ発酵の文化です。教育もこの発行文化を参考にすべきだと思います。

入学して来た生とは、米や豆のような純粋な心を持った若者です。それを学校の酵母ですばらしい酒や味噌にして卒業させてやる、まさに教師は優秀な杜氏である必要があるでしょう。杜氏の腕次第でいい酒やいい味噌ができるのです。埼玉大学の教授の皆さん、埼玉大学卒業の全国の高校・中学の先生方どうかすばらしい杜氏になっていい人格

を持った人間を育てていた
だきたいと思えます。
埼玉大学のご隆盛を祈念
して筆を置きます。



渡邊勝先生のこと

市川裕章（79年卒）

年賀状の準備を始めた折に、1通の喪中葉書が届いた。渡邊勝先生が2013年7月に亡くなったと、奥様名で記してあった。この数年、先生からは、「振返って茫々たるわが歲月」「日々老いと向き合って生きていく」など、私の知る先生像からは想像できない弱気な文面が認められた。

先生はH・ヘッセの研究
者で、原典購読、特殊講義
等の授業で、在籍中は大変
お世話をおかけした。健康
的瘦軀で文学研究者特有の
繊細な印象を受ける方で、
ゲーテから現在までの「教
養小説」の意義をお話しさ
れたことをよく覚えている。
ヘッセの長編「ガラス玉演
戯」を担当されていた。

私は4年生在籍中に急き
よ教員免許を取ることに
なり、更に2年間留年したが、
5年目の初夏のある日、夜

遅くまで独文研究室で先生
からドイツ語表現の指導を
受けた時の記憶は、今も鮮
明である。

筑波大や慶大の院に進学
されたHさんやT君、I君、
それに聴講生の女性が参加
していたと記憶している。

「関係」という語をドイツ
語でどう表現するかが問題
で、「ベチーウング」(B
eziehung)とすべきを「フ
アーヘルトニス」(V
erhältnis)としたので「情
事」の意味になってしまい
不適當だと、先生は笑って
指摘された。

私の埼玉時代の思い出は
その後の個人的感情のわだ
かまりから、ややもすれば
暗鬱ではある。が、勉強は
別である。ヘッセへの関心
もあって、渡邊先生の講義
には特によく出席した。こ
れは爾後の勉強の糧となっ
た。私の書棚の多くの部分
はズールカンパ版のヘッセ
の作品で占められている。

高校の教員に就職後、暫
くしてヘッセが35歳で移り
住み市民権を獲得したスイ
スへ旅行した。ルツェルン
の街角で道を尋ねた若者か
ら「ゲルマニストか」と問
われ、私は「プチゲルマニ

スト」と答えた。その時、
確か彼はヘッセの文庫本を
手にしていた。

私はできれば研究者にな
りたかったが、退職後の現
在でも相応の勉強は続けて
いる。偏に先生の励ましの
御蔭である。先生のご冥福
をお祈りいたします。

同窓生や恩師が

集う山浦食堂



私共は、夫婦揃って埼玉
大学教養学部出身です。国
立大学に1期校・2期校の
別が無くなり、共通1次試
験(現センター試験)が導
入された頃の受験生といえ
ばイメージしやすいでしょ
うか。

①目を閉じて味見を

山浦弘晴（84年卒）

目の見えない人達は、白
い杖や盲導犬を使って訓練
するから器用に歩けるのだ
と思いついていたが、実は
そればかりではないことを
最近知った。彼らによると、
足の裏の感覚は、立ったり
歩いたりする場所について
の情報を、健常者が思うよ
りずっと多く与えてくれる



のだという。その証拠に、暗闇では彼らは何も頼らずに、我々よりはるかに上手に歩けるのだ。なまじ目が見えるために、我々は使えないはずの感覚を活用できないでいるのだ。

私は調理師をしている。料理をする上で、この足の裏の例のように、我々が利用できないものに使っていない感覚がないものだろうか。そんなものがおいそれと見つかるわけもないだろうが、思い出したことがある。

料亭の料理長を長年務めてきた人の話で、修業中の弟子たちの中に、目を閉じて味見をするものを見つければ、こいつは良い料理人になるかもしれないと嬉し

くなるそうだ。味を確かめるときは、視覚による先入観は排除した方がいい。一旦、目をつぶって口の中に神経を集中してみる。そんな仕種が自然にできる若者は見込みがあるというのだ。統計をとったわけではないだろうが、作り話でもあるまい。瞬きをするたびに味が変わるようでも困ってしまうし、新しい感覚を手に入れたというほどのものではないが、とりあえず手間はかからない。日々の料理作りに物足りなさがあるなら試してみるといい。

さて、駆け出しのころの私は、おそらく見込みのない部類だったのだろう。今でも調理場で、思い出したように目を閉じてみたりしている。そんな料理でよければ、どうぞ山浦食堂にお越しください。

山浦食堂



〒331-0812 さいたま市北区宮原町 4-83-6

電話 048-660-4133

営業時間 12:00~13:30
(日・祝は予約のみ)

定休日 木曜・第3水曜
18:00~22:00

② チョッチョリ会

山浦(藤林)みゆき

(84年卒)

私は現在、公立高校の国語の教師をしている。現在というか、卒業以来31年間ずっとである。

20代後半の頃、同期の女友達にちよつとしたコンプレックスを感じていた。彼女たちは転職したり、海外に活動の場を移したり、再び学びの場に戻ったり、と着々とステップアップしていた。比べて私は、彼女たちに言わせれば「美由紀はずっと同じ仕事を続けていてエライ。」のであるが、世間では褒め言葉？のほすが、逆に嫌味に聞こえてしまうのだった。

それが、30代も半ば過ぎになると、もうほかに何をやるわけではない自分を知り、もちろん教師という仕事も面白くもなつて、私自身も彼女たちの仲間の一人なんだということに素直に受け入れられるようになった。

旧教養Bの女友達10名ほど、チョッチョリ会と名付けている。名前の由来はよ

くわからない。普通、百合とか桜とか花の名前のようなものを付ければよさそうだが、私たちは「バラ」より「鬼瓦」の方が断然合っているよね、とちゃんと自覚している。既婚率も子持ち率も高くないが、たまに集まっては、ダンナのことや子供の話題などでなく、自分のことばかり話しまくる女子会つてすごいと思う。

ところで、恩師のK先生。多くの弟子たちの中で、私など末端に位置、いや位置さえない不肖の学生だったが、光栄なことに今だにお付き合いいただいている。ここ数年は、亡くなられた奥様のお墓参りの帰りに「山浦食堂」に立ち寄ってくださる。日文の研修旅行をご一緒したところと変わら

ずお酒が強い。私なんぞを相手に、文学論から世間話まで機嫌よく話しておられる。先生と一緒に飲んでもうものなら、翌日が大変苦しくなるので、そこは気をつけつつ、「先生、もう終電です!」とお声掛けするのが常である。先生いつまでもお元気で長生きなさってくださいね。

その「山浦食堂」の店主

とは夫である。大学時代、むつめ祭や生協まつりでやっていた「山浦食堂」を本当に開店し16年。またお陰さまで結婚式も超え現在に至る。

昨年、教員免許更新講習で久しぶりに埼玉キャンパスを訪れた。でも、青春プレイバックという気分にはならなかった。私にとつての大学は、かけがいのない人たちと出会った場であり、その出会いはずっと続いていて、つまり私の大学時代は終わっていないからである。

現役生から

いろは坂大学女子

駅伝出場



鎌田ゆり葉 (4年)

いろは坂を駆け上って仲間たちと襷をつなぎ、未来の埼玉大生に思いをつなぐ

2014年の11月30日の日曜日、栃木県日光市い



ろは坂において、「第1回いろは坂大学女子駅伝競走大会」が開催されました。「日光をランナーの聖地にした、地域を盛り上げた」という地元の方の想いをもとに、この大会開催に向けて数年準備と計画を重ね、昨年記念すべき第1回大会の開催が実現しました。ゆくゆくは、日本のお正月の風物詩ともいえるほどの知名度を誇る、箱根駅伝のような大会にしたいという目標と夢の詰まった大会なのです。

いろは坂女子駅伝のコースは、日光市街地をスタートし、いろは坂の下り専用車線である第一いろは坂を逆走して駆け上り、中禅寺湖のゴールまで女子大学生6人が襷をつないで走るという、想像するだけでも過酷なものです。計画当初は、「女子学生にこのような過酷な上り坂は無謀なのではないか？」という声も上がったそうです。しかし、女子の大会にすることへの決意は揺らぎませんでした。それは、奥日光の歴史に由来しています。かつてその地の男体山や日光連山は山岳信仰の聖地で女人禁制・馬牛禁制で、破ると石になると言われていました。その名残りとして、コース途中の第一いろは坂の麓の「馬返し」という地名や、中禅寺まで行けなかった女性が男体山を拜んだ「女人堂」があります。こういった日光の歴史を踏まえて、女子学生が走ることに意義があるとして、この大会が企画されていったのです。

このいろは坂女子駅伝に、私達埼玉大学陸上競技部の中長距離ブロックは招待していただきました。その時は、こんな上り坂ばかりの駅伝大会ができることへの驚きとともに、自分達のチームで良いのだろうか、実力的に走って上れるのだろうか、という不安が募りました。私達は、国立大学の学生として、それぞれ教員や公務員になることや、一般企業に就職することや、指し、学業との両立を根底に据え、部活動に取り組んでいます。有名私大などの強豪校のように、寮に入っ

て生活のほとんどを部活動へ向けたり、卒業後に実業団で競技を続けたりということはありません。したがって大学でも部活動を続けようと入学してくる新入生は必然的に少なくなり、女子選手はさらに少ないのです。中長距離の女子選手が一人もいない学年もあり、数年前までは短距離の選手に無理を言っ

て協力してもらわないと駅伝チームが組めないという状況もあり、当たり前のようにありました。2006年から2008年入学の3年間は、女子の中長距離選手はいなかったのだそうです。しかし、2009年に女子の中長距離選手が入部してから、珍しいことに各学年で入部が続き、女子の人数が増えて駅伝のチームが組めるようになり、チームとしての力がやっとなり、少しずつ着いてきたところでした。有名私大の選手と同じスタートラインに立つのは、他の駅伝で繰り上げスタート(先頭チームの中継地点通過から規定の時間が経過すると、仲間と大学の到着を待つことなく、運営側の用意した襷をかけて一斉スタートしなくてはいけない、というルール)になっ



日光のゆるキャラと。左から鎌田さん、池田さん

たりコースについて下調べをしたり、できることをやっていたいきました。

大会当日は、日光の地元の方々温かく迎えていただき、厚いおもてなしを受けました。OGを含めた6人のメンバーの、最初で最後の襷リレーでいるは坂を駆け上り、なんとか繰り上げスタートにもならず「埼玉大学」と刻まれた襷を肩にかけてゴールすることができました。

かつて箱根駅伝を走った埼玉大学のOBの方々は、50年以上経ってから後輩の女子達の決断を後押しするとは思っていなかったことでしょう。私たちのチームがいろは坂女子駅伝に挑戦し大学の名を大会の歴史に

残したことが、埼玉大学の後輩達へ襷のようにつながれていくことを願いながら、私は残り少ない学生生活を、後輩達は学業と競技を両立した生活を、大切にしながら過ごしていきたいと思います。

陸上競技と文化人類学



池田真依子（3年）

私は、自分のやりたいことや好きなものを見つけたために埼玉大学教養学部への入学を希望しました。自分の将来を上手く思い描くことができなかった私は、大学に入ってから自分のやりたいことを見つけたと思います。そんな私にとって、広く色々なことを学べる教養学部はたいへん魅力的でした。合格が決まった時は、嬉しさと安堵の気持ちでいっぱいでした。

合格が決まると、すぐに陸上競技部への入部を希望しました。私は高校時代から陸上競技を始め、個人種目での関東大会出場を目標に練習に励んでいました。日々努力した結果、引退前の最後の夏の総体で800

mでの関東大会出場を決めました。関東大会という夢の舞台にもう一度立ちたいという思いから、大学でも競技を続けることを決めました。関東インカレに出場するためには標準記録を切るなくてはなりません。正直、入部当初の私の実力は標準記録から大きくかけ離れていました。

そこで、いつの試合でどのタイムを出すのか、そのためにはいつまでにどんな練習ができていなければならぬのかを明確にしました。そのおかげで、無駄な練習に時間を割くことが無くなり、短時間で記録がぐんぐん伸びていきました。そして、3年生の11月には1万m走の標準記録まであと7秒というところまでたどり着きました。このまま上手く練習をこなして、4年生の春には必ず標準切りを果たしたいです。

競技面以外でも、部活動を通して自分を成長させられる場はたくさんあります。私は、女子長距離バート長として個人個人のレベルに合った練習メニューを作成しています。より良いメニューを立てるためには、一

人ひとりをよく観察したり、本人の意見を直接聞くことが大切になってきます。自分の練習だけでなく、同時に他者の練習にも目を向けることで、広く周りを見る力を養うことができました。

そのおかげで、部員の怪我や悩みにも素早く気付けるようになりました。また、25校もの国公立の大学が参加する大会の運営役員も担当しています。大会の運営を通して、他者と協力しながら問題を解決していく力を身に付けることができました。

それと同時に、大きなものを他者と協力して作り上げることの素晴らしさも知りました。部活を通じていく上で大変なことはたくさんありますが、それら

を乗り越えていくことで大きく成長することができています。

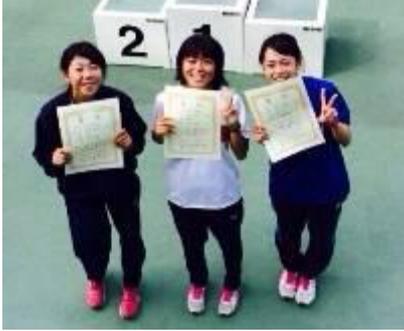
陸上部の練習は週に5日とハードです。遠征や合宿があるのでお金もかかります。栃木県から電車で通学している私にとって、部活とバイトをしながら勉強にも力を入れるのは正直大変です。テスト期間だからといって、部活は休みにはなりません。しかし、自分の興味があることを学んでいるので、勉強にも真剣に取り組むことができます。

教養学部は必修科目が少ないので、自分の興味のある講義を中心に受講できます。外国の文化に関心がある私は、文化人類学を中心に学んでいます。伝統社会



スタート地点。青いユニフォームが埼玉大・池田さん

国公立24校大会5000m3位(右端)



には、私たちとは違った価値観を持った人々がいます。私たちにはなかなか受け入れられることができないような慣習がある社会もあります。しかし、それらは現地の人々にとってはきちんと思味があることで、なくてはならないものでもありません。私は文化人類学を学んでいく中で、自分にとっての正しさが、必ずしも他者にとつての正しさではないのだということに気付かされました。これはごく当たり前のことですが、ついつい忘れてしまいがちなことだと思います。このことに気付いてからは、部活動で他の部員と意見が合わなかった時にも上手く対処できるようにしました。

他者には他者の考えがあるということ意識するようになり、違う意見を否定する前に、他者の立場になって考えてみるようになりました。仮に共感することができなかつたとしても、他者の考えを理解することが大切なのだと思っています。

自分探しの 大学生活



坪田 咲 (2年)

この文章を書くにあたって、私が埼玉大学に入学してからもう2年前になることに気づき、時の速さに驚いています。同窓会の会報に載せるエッセイを書いて欲しいと頼まれ、深く考えず

に承諾してしまったものの、私がエッセイを書くほどの大学生活を送っているかどうか、若干疑わしく思っています。そこで、これまで埼玉大学の教養学部で私が何をしてきたか、一度振り返ってみることにしました。

大学に入ってから、外国語の勉強に特に力を入れてきました。1年次は英語のプレゼンにも積極的に取り組み、第2外国語のロシア語の学習も継続しています。この頃は日本語以外に使える外国語が1つでもあると、自分の楽しみが増えると実感することが多くなりました。映画のセリフの良さを味わえたり、詩の響きを感じ取ることが可能になることに大きな達成感をおぼえています。

苦い思い出もあります。入学当初の私は、大学の吹奏楽部に入ってフルートをやりたいと思っていました。以前から音楽が好きで、中学時代から続けていたフルートを大学に入ってもぜひ続けたいと思っていたので、吹奏楽部に入部するつもりで、オーディションで不合格となつてしまいました。

当時、フルートの希望者が部の募集人数を大きく上回り、本番で緊張しやすい私はミスを連発してしまつたのです。仕方なく、サークルを諦め、1年間のブランクを経て現在は地元の吹奏楽団に所属するに至っています。

ところで、2013年の冬頃から私は猫を飼い始めました。雑種の三毛猫に今ではペルシャ猫も加わって2匹の猫と実家で生活しています。埼玉大学のキャンパス内にも去年のいつからか野良猫が住み着いています。

最近は大学生会館のロウンと第2食堂の間の雑木林のような所や保健センターの近くに、人懐っこいものから生粋の野良まで、多様な猫たちが出没しています。

初めは2〜3匹だったのが、去年の夏に子猫を生んで、今や35匹もの猫が確認されるに至っています。

ロウンの外の席で食事をしていて人間に分け前をねだる白地に茶色い模様の猫。ベンチにどっかりと座って気前よく写真を撮られるたり撫でられたりするための三毛猫。茂みを飛び跳ね廻ってじゃれ合う子猫たち。目が合うと警戒してこちらをじつと見つめるキジトラ模様猫。決まった場所に決まったメンツがそろっているような気がします。探してみるると楽しいものです。猫好きな先輩は、見に行かしてはいいでしょうか。

しかし、猫たちは可愛いだけではないのが現実です。増えれば増えるほど、臭いや騒音などの問題が深刻になります。ロウンの辺りは車も出入りするので、事故の危険も考えられるでしょう。猫は繁殖力が強く、このままだと大学構内が猫だらけになってしまうかもしれません。

猫好きな私にとっては悪くない話ですが、大学としてはこれ以上増えて欲しくないように、このたび大学



安達先生のロシア語講義
『最後の一片』を読む

の事業として、猫たちの無料避妊・去勢手術の実施が予定されています。私も手伝いのボランティアに応募したところです。

しかし、現在構内に住み着いている猫たちを全て避妊手術したとしても、餌をやる人がいれば外部から新しい猫が来ても不思議ではなく、埼玉大学と埼玉大猫との付き合い方を考えていかなければなりません。うまく共存していけるようになっていきます。

これまでの大学生活を猫の話も含めて振り返りましたが、これからの大学生活がどうなるのか私は少し心配です。自分がこれからどうなって、どんな仕事に就いてどんな生活を送るのか今の私にはまるで想像がつかないので、将来が不安で

なりません。自分の歩むべき道も、これといって見つけられたわけでもありません。今、何のために大学に通って、何のためにロシア語やら文学やら音楽やらを学んでいるのか、時々わからなくなります。

これは大学の誰かが教えてくれることではなく、自分で探し出すしかないというところは覚悟しているつもりではありますが、外国語ができるようになっただけでは生活は保障されないし、好きな事だけでは生きていけない。「ただ一生懸命にやっていたら何かしら見えてくるのではないか」という友人の言葉を信じて、外国語をがむしゃらに勉強し、音楽に触れ、猫と戯れながら、自分の人生を模索している毎日です。

最近、迷うことは学生の貴重な特権ではないかとさえ感じられるようになりました。これから就活が始まるまでの間だけでも、目の前の課題や研究に尽力したいとともに、大学と猫の関係がよりよくなるために役に立てるように、残りの大学生活を過ごしていくつもりです。

あつたや

けやき会総会

2014年けやき会総会を6月21日(土)に北浦和駅前の埼玉県立近代美術館で開催しました。

講演会

2時から山野清二郎(文理65年卒・埼玉大学名誉教授)の講演『武蔵国の古代文学』ことはじめ』今回も市民にも公開し参加者は61名。市民18名、現役生も参加。

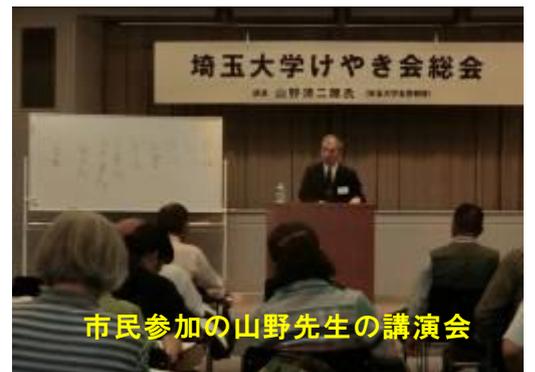
○講演要旨

武蔵国を含む古代東国は、都から僻遠の地にあったこともあり、文学の発達は遅れをとった。それでも万葉集には東歌や防人歌などが載り、その存在が知られるものの、平安期以降は深い眠りに陥る。それをどのように解すべきか、探ってみることにする。

同窓会総会

活動・会計報告・活動計画など全議案が承認された。43名参加。

懇親会(近代美術館内・レストラン) 稲葉雅美さん(24回)の司会で、インタ



市民参加の山野先生の講演会

ビューを中心に同窓生、先生方、学生が親しく懇談できた。参加者38名

2次会(北浦和西口 庄屋)

22回生の長竹均さんが仕切ってくれて、懇談会以上に膝を交えて楽しく懇談した。懇親会2次会とも現役生は会費はなし。現役学生6名。

文理10回生同期会

2013年3月22日銀座四季。ほとんどのものが職を退いた平成18年10月、しばらく中断していたクラス会を再開しました。場所は日比谷の松本楼。次は埼玉大学文理学部校舎跡地にある埼玉県立近代美術館の食堂と3年間隔で行っている。今回は故人となった仲間の絵画展を文芸春秋画廊で鑑



話が盛り上がった2次会

賞後、銀座四季での会食となりました。

22回生同期会

2013年2月13日、東京・五反田ピッツアリア・アリエッタ。インターネットのSNS、フェイスブック上での同窓会結成一年の節目に、FB外からの参加4人(うち1人はパーティ後にFB参加を含め、北は岩手、南は鹿児島から総勢



16人集まりました。写真は盛り上がりすぎて、私のカメラがエラーを起こし、集合写真が撮れなかった。

上尾崎さんを囲む会

2013年8月12日 東京・曳舟 創作料理『饗』。鹿児島から上京した上尾崎ゆり親子を囲んで、22回生中心に遠くは仙台、松本、浜松から計12名参加しました。フェイスブック同窓会以外から女性3名の参加が、20数年ぶりの再会もあり、大変盛況でした。

9回生同期会

2014年2月22日、浦和・美家古鮎。京都新聞社東京支社長の結城公生君が春の異動で京都に戻るこ



上尾崎さんを囲む会(22回生)

とが予想されたので、昭和48年入学組および昭和52年卒業組の近辺で連絡のつくメンバーだけで、ミニ同窓会を行いました。

会場のお寿司屋さんは、

学生時代は店主の親父さんが東口でやっていた店。息子さんの代に再開発で西口交番そばに移転してきた。集まったメンバーの何人かは学生時代や若い頃にオヤジに出世払い(?)で呑んでいたお店です。おかみさんにご健在でまだ店に立っています。

久しぶりに会ったメンバーも多く、ほとんど還暦を過ぎていて、髪があるとかないとか、大騒ぎをして、夕方5時から9時半ごろまで良く語りよく呑みました。



9回生同期会

大塚先生を囲む会

2014年5月22日に有志にて、同年退職された元教養学部中国文化コースの大塚秀高先生をお招きし「大塚先生退職記念懇親会」を開きました。この発端は「けやき会 第12号」に先生の退職にあつたての文章が掲載されていたことです。33回生同期や年代の近い方々と連絡をとったところ、退職されたことを知らない人ばかりで、ぜひ一度お会いして感謝の意を伝えよう、ということになりました。

当日は、先生がなんと卒業名簿ならぬ卒業論文リストをお持ちくださり、それを眺めながら当時の思い出話を花を咲かせました。先生に助けていただいたエピソードがいくつも出て先生のお人柄に改めて敬服する次第でした。上は平成5年卒、下は8年卒までと知りうる限りで連絡取りましたが、残念ながら都合つかないものも数名おり、結局、先生と卒業生5名、未来の埼玉大生(?)合わせて9名での小さな懇親会となりました。



有志によりお花と記念品を贈り、我々の気持ちは伝えられたかと思っております。また、今回のことのように母校の様子が同窓会報で知れるのは、ありがたいことです。会の発展をお祈りしております。(平成11年卒 和田恭人)

手島君を囲む会

2015年2月21日、炉



端かば丸の内店に上海勤務中の手島陵人氏の一時帰国に合わせて、1990卒を中心に12名が集結。北は岩手、西は浜松、松本からも参加。25年ぶりの再会もあり、大いに盛り上がった3時間でした。

1回生同期会

2015年11月3日、葉山にて1期会を開催。逗子駅に集合し、葉山海岸を散策して「なじま」という小料理屋で会食しました。木曜という平日でしたのでまだ働いている人もいて、また少し遠いこともあって8名にとどまりました。しかしよい天気にも恵まれ、逗子の海岸から富士山や江ノ島、伊豆半島も見えてすばらしい景色でした。



けやき会寄附講座 『経済事情—グローバル時代におけるキャリア形成—』後期3時限 ※講義のみ記載

10/10	グローバル時代に成功するには	鶴谷武親(22回生)	ポリゴンマジック社長、早稲田大学商学大学院客員准教授
10/17	グローバル時代のキャリア形成	田口美一(13回生)	金融経済アナリスト、元日本銀行、クレディ・スイス証券
10/24	教養学部卒業後のキャリア構築例	中川和広(13回生)	開発コンサルティングOPMAC勤務.
10/31	中東・イスラム社会における対日感情とその変化	榎木 誠(2回生)	けやき会会長、元日本経済新聞編集委員、学習院大学講師
11/7	グローバル時代の興隆と観光立国	澤渡貞男(2回生)	元ジャルパック・サンフランシスコ支店次長、駒澤大学講師
11/14	国際機関(国連)で働く	滝澤三郎(4回生)	元国連難民高等弁務官事務所駐日代表 東洋英和女子大学教授
11/21	グローバリゼーション、異文化理解を考える	榎木 誠(2回生)	けやき会会長元日本経済新聞編集委員、学習院大学講師
11/28	起業体験を通じて見たグローバル時代の会社経営	峰崎 進(4回生)	(株)オーキス社長
12/5	地方自治体の水事業の海外展開	石田義明(7回生)	元埼玉県公営企業局責任者、つばエクスプレス常務
12/12	自己発見のための異文化理解	中村義実(18回生)	敬和学園大学教授
12/19	女性の働き方と生き方を考える	設楽映紀(42回生)	元エンターメント会社勤務
1/9	ヨーロッパでの仕事と生活、そして歴史との出会い	赤津光一(2回生)	元JETROポーランド事務所長、
1/16	地域活性センターで働いて	岡野衣里(39回生)	上尾市役所・地域活用センター派遣
1/23	国際開発で大切なこと	加藤基(1回生)	前ガボン大使、埼玉大学客員教授



2015年度教養学部入学案内のデータより

卒業生の就職(女子)			
	2008年度	2012年度	2013年度
卒業者数	208(135)	197(139)	196(133)
就職希望数	174(113)	166(118)	170(118)
就職数	150(97)	140(101)	142(98)
業種内訳(女子)			
	2008	2012	2013
農林水産	0	0	0
建設	0	1(1)	4(2)
製造	20(11)	17(12)	19(13)
電気・水道等	0	0	0
運輸通信	28(19)	25(19)	15(12)
飲食・小売等	23(19)	19(12)	22(16)
金融・保険	28(20)	20(12)	13(8)
不動産	1(1)	6(4)	1(1)
サービス	23(14)	32(25)	31(22)
教育	10(3)	5(2)	7(6)
公務	14(7)	14(13)	26(16)
その他	3(3)	1(1)	4(2)
大学院進学	17	14(7)	14(7)
計	150	154	156

主な就職先	
建設・製造	大林組、大和リース、サンワコムシステムエンジニアリング、松永建設、かどや製油、ボンパドウル、DNPエスピーテック、浅野製版所、白岡オリンパス、日本電子、日本電産、日本HP、山田製作所、野口精機、アストラゼンカ、ラツキーコーヒーマシン、ケーヒン、富士薬品、大正富山医薬品(2)、持田製薬、ヤーマン
宿泊・飲食・卸売・小売	ACN、安斎交易、伊藤忠ケミカルフロンティア、第一実業、日産トレーディング、日通商事、マークスタイラー、ヤマト電子、イオンリテール、エイ・ネット(2)、ケーヨー、三松(2)、しまむら、トライアルカンパニー、ノジマ、パルコ、リオン・ドールコーポレーション、埼玉トヨタ、サマンサタバサジャパンリミテッド、ジュングループ、ニューコーポレーション、三井不動産ホテルマネジメント
運輸	ホームロジスティックス、関東いすゞ自動車、日本航空、日本郵政グループ(2)、JR東日本(4)、福山通運
通信マスコミ	アグレックス、シーイーシー、博報堂プロダクツ、浜松ケーブルテレビ、ライトクリエイション
金融・保険	JCB、常陽銀行、仙台銀行、埼玉県信用金庫、諏訪信用金庫、東海東京証券、東京スター銀行、三井住友カード、あいおいニッセイ同和損保保険(2)、かんぽ生命、日本生命、明治安田生命
教育	SI-UK Education Council、紀文飛騨高山美術館、トウシン、ISA、アカデミー、ライフツリー
サービス・その他	アップル、ハヤブサドットコム、ベクトル、ベディキュール、市場開発研究所、ダーウィンシステム、トヨタツーリストインターナショナル、リクルート、北関東マーケティング、ギミック、レベルファイブ、近畿日本ツーリスト、クラブツーリズム、日本旅行旅、Meiji Seika、ファルマ、あだち眼科、横浜市東部病院、ベストメディカルセンター、埼玉県国民健康保険団体連合会、メディカル・ケア・サービス、遠州夢咲農協、大蔵屋商事、グロップ、埼玉中部農業共済、ネセリア東日本、楽天、NTTデータ経営研究所、イトキン、NTTソルコ、太陽企画、ベリーベスト法律事務所、極真空手連盟極真館アメリカ支部
公務	国土交通省、財務省財務局(関東財務局)、会津若松市役所(2)、梶橋区役所(2)、いわき市役所、宇都宮市役所、江東区役所、埼玉県警察、埼玉県庁(3)さいたま市役所(3)、佐賀県庁、坂東市役所、特別区、豊島区役所、那須烏山市役所、新潟県庁、富士見市役所、山形県庁、山梨県庁

加藤泰建先生退職 記念パーティー

2014年11月8日、埼玉大学学生会館大集会室において、加藤泰建先生の副学長退職を記念する文化人類学研究室同窓会が開かれ、文化人類学を専攻した卒業生が120名以上参加しました。挨拶と乾杯の後、三浦敦先生が「埼玉大学文化人類学研究室 その48年の歴史」と題した文化人類学研究室史を説明し、山口宏樹学長の挨拶の後、加藤泰建先生の「最終講義に替えて 埼玉大学での教育研究 37年」という講演がありました。北浦和駅前の居酒屋



埼玉大学文化人類学で120名以上という参加人数は驚きです。

定員	日程	募集人数	志願	受験	合格	入学者数
160	前期	125	324 (373)	311 (361)	176 (177)	167 帰国子女 6
	後期	35	126 (280)	126 (280)	35 (35)	留学生 3

出身校の地方別入学者数

	2012年度	2013年度	2014年度
北海道	2	6	5
東北	35	38	36
関東	88	79	73
(うち埼玉)	(39)	(31)	(40)
中部・近畿	30	24	34
中国・四国	5	10	7
九州・沖縄		7	10
外国・検定	7	12	5
合計	172	176	170

で開かれた二次会にも80名以上、その後の三次会にも30名以上の参加者があり、大盛会でした。吉野晃(文化人類学80年卒)

第2食堂 リニューアルオープン

校門に近い第2食堂が新しくなりました。「食事をする場」から「集い、語り合う場」として使われるようになりました。学会パーティーや学部同窓会の懇親会にも使われています。カフェテリア方式のほかピュッフェスタイルも併設され、好きなものを選んで会計になります。南側にはウッドデッキが設けられ、景色を楽しみ、風や光を感じられる開放感あふれる中で食事ができます。第2食堂の隣には定食と飲み物がとれるカフェの建物もできました。



第2食堂の外にできたウッドデッキ

事務局から

ミニ同窓会の補助金申請

ミニ同窓会(10名程度)なので8,9名ならばOKです。に、けやき会より1万円補助します。報告を。

会の名称	氏名
代表者	卒年
	郵便番号
	住所
	電話番号
	メールアドレス
実施日	
開催場所	
出席人数	
振込先	
会の様子や写真	

2014年版新名簿

1冊3800円です。購入希望者は事務局へ。

教員の異動

水野博介先生↓退職
池上純一先生↓退職

教養学部50周年総会

50周年記念として創設当時を知る当時の先生にお話をしていたく予定です。当時の校舎があった北浦和駅前の県立近代美術館で総会・懇親会を開催するので、たくさんのお客さんが参集して盛り上げましょう。

2013年度決算報告

今回からホームページで報告いたします。

ホームカミングデー

2015年10月24日(土)

全学部の同窓生に参加を呼びかけています。昨年は学生会館にて無料のパーティーや研究成果の発表・サークルの演技などがありました。

むつめゴルフ大会

10月22日(木)大宮国際カントリー 詳細はHPの埼玉大学むつめゴルフを検索。

発行者

埼玉大学けやき会

(埼玉大学文学部文芸学・人文科、教養学部、文化科学研究科 同窓会) 会長 榎木誠

編集 関根増男

埼玉大学けやき会事務局

〒358-8570

さいたま市桜区下大久保 3255

埼玉大学教養学部内

メールアドレスは

info@keiyakikai.net

埼玉大学同窓会事務局

dousou@mail.saitama-u.ac.jp

電話：048-858-9218